

しみずの教育 ちよつといい話

【令和2年3月号】

清水小学校

校長 高井正樹

工事現場ではたらくお仕事



防災教育の一環として、足寄町の齊藤井出建設様のご協力で、4年生が十勝川の河岸保護工事を見学しました。校内で、川や工事についての基礎知識を学んだ後、河川の氾濫を防ぐために行われている工事現場に出かけ、実際に工事に使われている重機に乗ったり、土のう作りを体験したりしました。4年前、台風による大きな被害を受けた清水町に住む子どもたちにとって、災害を防ぎ、私たちの生活を守るために行われている工事の様子を目の当たりにすることは、貴重な学びになりました。



御影小学校

校長 清水 弘

よさを理解して大切にする心～伝統文化一日体験～

1月31日（金）、本校の6年生が伝統文化一日体験学習を行いました。町の生涯学習ボランティアとして各団体の方々が講師となり、「琴」「三味線」「茶道」「華道」「剣武」「日本舞踊」の6つに子どもたちが分かれて体験しました。それぞれの芸の基本的な作法や技法を学び、午後からは体育館でそれぞれの成果を演奏・実演などで発表しました。午前中だけの短時間の学習にもかかわらず、素晴らしい発表となりました。講師の方々のやさしく丁寧で上手な教え方と子どもたちの集中力・吸収力に感心いたしました。

どの学校でも日本の伝統文化に関する学習を行っていますが、本校のように、一日かけてたくさんの種類の伝統文化にふれられる学習活動は、稀有なことです。地域の方々と世代を超えたふれあいにもなり、本校の子どもたちはとても貴重な体験ができて幸せです。

今後ますますグローバル化が進み、世界各国の方々とお付き合いする機会が多くなっていきます。日本の伝統文化について外国の方から質問されても、説明できずに困ったという話もよくあることです。日本の伝統文化について体験したり学んだりすることによって、日本の伝統文化について関心をもつきっかけとなり、そのよさを理解して大切にしていこうという心が育まれればと思います。そのことが外国の文化も尊重する心につながると思います。また、日本のどの伝統文化の作法にも、日本の礼儀作法に通じるものがあり、そのような意味でも価値ある学びであると考えます。

これからも、このような教育活動に継続して取り組んでまいりたいと思います。お世話いただいた講師の皆様をはじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。どうもありがとうございました。



【琴】



【三味線】



【茶道】



【華道】



【剣武】



【日本舞踊】

清水中学校

校長 尾崎 俊明

「新入生体験入学・小中連携出前授業」

2月6日、次年度新入生の体験入学・説明会が行われました。6年生の児童は、初めて中学校に入る人もいて、心配そうに辺りを見渡す姿がありました。また、中学生の凛々しい制服姿にあこがれの様子や授業を見てワクワクする様子うかがえました。保護者の方は、中学生の学習や生活について担当の先生方から話を聞き、少し不安も解消されたようです。



数日後、中一ギャップの解消に向けて、中学校の先生方が小学校へ出向き授業をする出前授業が行われました。教科は、数学・英語・体育です。

英語では、中学校の2人の先生が英語で自己紹介をした後、綴りと発音の練習を行うフォ



ニックスをALTのマライア先生と一緒に練習しました。カードを使ったゲームも楽しかったようです。体育は、T先生とS先生の二人で「ラジオ体操ペア」を見本として見せてくれました。初めて見る不思議なラジオ体操にちょっと戸惑いながらも笑顔が溢れ、楽しい授業となりました。

4月からは制服を着て元気に清水中学校の生徒として入学するのを職員一同、心待ちにしています。

御影中学校

校長 塚原 雄二

自分の力を信じ、自分の力で未知の大空へ飛び立とう

<卒業生の巣立ち>

巣立つ卒業生の皆さんへメッセージを送ります。

カモとかツグミなど、冬の鳥は北へ去ってしまいましたが、ツバメが南からやってきます。卒業生の皆さんは次のステップに進むことになり、高校に進学ということになります。最後に「巣立ち」という、鳥が巣を立ち、自分の力で生きていくという話をしたいと思います。

鳥の王様というと、あの「鷲(わし)」をまず思い出してください。その鷲は自分の子どもを育てるとき、それこそ鳥も通わぬ断崖絶壁のところに巣をつくるのです。まず外側からたちとか野ばらのようなとげのある枝をとってきて、組み合わせ、その内側に木の葉などを敷きつめます。そして最後は親鷲のやわらかい暖かい羽の毛をそろえます。そこで抱卵といて温められると、やがてひなにかえて、黄色いくちばしでえさを求めます。親鷲は可愛いひなにせっせとえさを運んでやります。

ところが、子どもが大きくなり、もう十分独り立ちできるようになると、あの巨大な翼で大きく羽ばたき、内側にあったやわらかい羽と続いて、敷きつめていた枯れ葉などを散らしてしまうのです。そうすると、残っているのは鋭いとげのある枯れ枝だけです。痛いですがそこにはいられません。飛び立とうとしますが恐ろしくて立てない。しがみつきますと、とげがささり赤い血が流れてきます。

こうなったら、どうすることもできなくなって、思い切って大空に飛び立つのです。飛び立てば自分の翼の力で飛べることを発見するのです。これを「巣を立つ、巣立ち」というのです。つまり、自分の力を信じ、自分の力で未知の大空へ飛び立つのです。

今日はその「巣立ち」の日です。三年生の卒業する皆さんは、その準備もとのっていると思います。見送る先生方や保護者の皆さんも「巣立ち」の三年生の皆さんに心をこめて拍手をして送り出したいと思います。

これが私の最後の卒業生のメッセージ、贈ることばとして、最後の授業となります。四月には翼を大きく広げてどうぞ大空に羽ばたいていってください。

卒業生の皆さん、おめでとうございます！

保護者や地域の皆様、ありがとうございました！

本来であれば卒業証書授与式を開催し、保護者の皆様や地域の方々と一堂に会して卒業を祝うとともに、校長から卒業生への激励と関係のすべての皆様への感謝の言葉を伝え、卒業生を送り出す予定でしたが、本校からの連絡や報道等でご承知のとおり、今年度の本校での卒業証書授与式を中止しました。この場を借りて、出席を予定されていた皆様にお詫び申し上げます。

なお、卒業証書については、次の校長メッセージと共に、学校に来ることのできる生徒には学級担任から手渡しをし、来ることのできない生徒には郵送しました。また、来校生徒に向けては、玄関にお花を並べるなどして、心ばかりのお祝いをしたところです。



【卒業を祝う職員玄関の様子】

こうした状況下ではありますが、地域の皆様から卒業生にいただいたご厚情と本校へのご支援への、深い感謝の気持ちに変わりはありません。本当にありがとうございました。

一方、1・2年次については、年度末休業に入る前日の3月24日まで臨時休業となります。一日でも早く緊急事態での対策が実を結び、皆様の健康と安全が確保され、いつもの日常生活に戻ることを願っています。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。

本来であれば、三月一日に卒業証書授与式を挙行し、皆さんの卒業を直接お祝いするところでしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため当日、そして延期しても実施の目処が立たないことから、二月二十八日にお知らせしたとおり、中止の決断をせざるを得ませんでした。高校での卒業式、卒業生にとっては一生に一度の思い出深いものになるはずでしたが、そのことについて、大変申し訳なく思っております。

今後、こうした対策が実を結び、道内はもとより、日本、世界の各地で、少しでも早く感染が収束に向かうことを願ってやみません。

そうした中ではありますが、卒業生への感謝の意を込め、1・2年次生が式場設営や丁寧な清掃、正面の表現力豊かな大きな題字作成などに取り組んでいたことは、登校日に見て感じていただけたかと思えます。私からも本校教職員を代表し、あらためて、この度卒業する百二十六名の皆さんにお祝いを申し上げます。

思い起こせば、皆さんが本校に入学した平成二十九年四月八日、同時期に着任した私も一緒に入学する気持ちで述べた式辞では、校訓「自律、探究、創造」を大切にしながら学校生活を送るよう話しをしました。皆さんは文字通り、この校訓を胸に刻み、先生方の指導やアドバイスをしっかり受け止めながら自ら考え行動し、課業日の授業や学校行事はもとより、課業日以外にも部活動、模擬試験や資格試験などの進路活動等に積極的に参加し、自分たちの力を最大限に伸ばしてきました。

特に、二年次には「つながり」を、三年次には「その先」をキーワードに、学校内外の人たちと良好で協働的な関係を築き、未来の自分、将来の社会の姿を思い描きながら、主体的な取組を数多く実践してくれました。そうした実践を本校の「育成する資質・能力」

などと照らし合わせ、これまで自分に身に付いた力を振り返りつつ、新たな場所や環境で自分をさらに成長させ、地域や社会へ貢献する決意を新たにしていることと思います。

しかしながら、皆さんがこれから直面する現実、変化も激しく、予想外のことも起こりうる厳しいものです。しかし、皆さんは本校での学びを通して、自分がやれることへの自信と、自分ができないことへの謙虚さを併せ持っているはず。これからも、それぞれの進路や生活の中で、周囲の人の声を真摯に受け止め、よく学び考えて行動し、自分と身近な人、そこからつながるすべての人々の幸せを一緒につくっていかれることを期待しています。我々清水高校の教職員はこれからも皆さんを応援していきます。

結びになりますが、これまで皆さんと本校を支えていただきました保護者の皆様や地域の方々、機会がありましたら、皆さんからも私の感謝の意をお伝えいただければ幸いです。

それでは卒業生の皆さん、お元気で！

清水幼稚園

教頭 池 守 由美子

一日入園で楽しみました

4月から幼稚園に入園する10名のお友達が来てくれました。登園から緊張していた新入園児さんに、どの子も優しく声を掛け、教室での遊びに誘っていました。

その後、お遊戯場に移動してみんなで歓迎の気持ちを込めて季節の歌を歌ったり、年長児は楽しい手遊びを披露したりしました。

全員でリズム遊びを披露したあとは、3歳児が新入園児のお友達を誘い一緒にリズム遊びを楽しみました。優しく声を掛けようねとお約束していた事もあったと

は思いますが、とても上手に小さなお友達に接することができていました。

先生が演じる「おおきなかぶ」のエプロンシアターを見たあとに、来年度は年長児になるさくら組から、「幼稚園に来てくれるのを待ってるよ♪」のメッセージを添えてペンダントをプレゼントしました。



わくわく英語活動

年間6回の英語活動を行っています。6回目の英語活動には、来年、年長児になるさくら組も参加。今日はどんなことをするのかと、目をキラキラ輝かせてマライア先生と棚田先生の言葉に集中していました。

今まで行ってきた活動をおさらいする形で、楽しい時間はあっという間に過ぎて行ってしまいました。最後に、年長児からお礼のペンダントを贈りました。



雪遊びを楽しんでいます

1 去年は雪不足、今シーズンは12月、1月と雪が積もりませんでした。土が見える中での雪遊びは、つなぎのジャンパーが汚れてしまう・・・と、十分に遊べないでいましたが、2月にやっと雪が積もりました。♪「待っていました！」とばかりに、ジャンパーを着て、帽子を被り、外に出ます。スコップに雪を乗せ、ソリに運ぶ子、除雪のために集めた小さな山を見つけ、ソリ滑りを楽しむ子、保育士と一緒に雪を集めて山を作り、穴を掘り、かまくらを作る子。みんな好きな遊びを見つけ楽しんでいます。例年は大きな坂を保護者の方に作っていただき、ソリ滑りを楽しむのがメインですが、雪が少ないなりに、あちこちに子どもサイズのかまくらや雪だるまが出来ている園庭です。寒さに負けず、元気に雪遊びを楽しんでいます。



(保育士 菊地 明美)

小さい子、かわいいね



夏ごろから「もも組（0歳児）で遊んできていいですか？」と小さい子たちと触れ合いたい気持ちが育っていたひまわり組（年長児）の子ども達。ひまわり組の子ども達は5人までもも組と一緒に遊ぶことができるので、いつも「後、〇人だな」と数えながら、そして残念ながら間に合わなかった子はその遊んでいる様子を見ながら自分の保育室へ戻っています。もも組の子ども達も随分とひまわり組の子ども達に親しみの気持ちを持ち、保育者に言われるよりも、ひまわり組のお兄さんお姉さんに声をかけられた方が素直に話をきいているようです！その様子を見るとかわいくて“自分たちがもも組に行かなくては！”という思いになっているよう。もも組は早めに午睡に入るので、寝かしつけまでしているひまわり組のみんなも、5～6年前は同じように「小さくて、かわいくて、みんなから可愛がられていたんだよ」と伝えながら、その様子を見守っています。そのひまわり組のみんなも、もうすぐ1年生。成長した姿にうれしい気持ちともう少し一緒に居たいなあという気持ちの職員一同です。



(保育士 金山 明美)

第二保育所

今年も来た！来た！

赤鬼・緑鬼の襲来！



今年も来ました！赤オニ・緑オニの二人ですが、遊戯場の入口と外から一人ずつ入ってきたので・・・子ども達もどこへ逃げたら良いのやら・・・(T_T)

「わ～！きゃ～あ！ぎゃ～あ！」と大騒ぎでした。赤オニは子供を抱っこして緑オニは金棒をドンドンしながら追いかけて来ました。

年長さんは小さい子を守ろうと必至に豆をぶつけますが、オニも負けじと向かってきます。そのうち、緑オニとうさぎぐみの先生が相撲を取り始め、みごと！緑オニの勝利！！

と大賑わいのうちに終わりの時間が来てしまいました。オニはお土産を置いて退散して行き、子どもたちはほっとしたのも束の間・・・第二幕の始まりです！再びオニが登場して大暴れ！

こんなはずではなかった、と子どもたちはまた、豆を拾い一生懸命ぶつけたので、やっとオニは退散しました。



「もう、絶対来ないでね・・・」と心から思う子どもたちでした。



(保育士 青沼 広子)



真っ白な雪の贈り物



待っていた雪がグラウンドいっぱい降り積もりました。雪山が二つもできて大喜びの子どもたち！！「そり滑りする！」「雪だるまを作ろう！」。少しぐらいの寒い日でも、雪の日でも身支度をして雪遊びに出掛け、元気いっぱいに体を動かし楽しむ子どもたちです。

先日、雪中運動会をし、その中で「そり玉入れゲーム」をしました。

どこのクラスが一番多く玉を入れることができるか…。結果はやはりぞう組の優勝！！喜ぶ年長児…悔しがる年中児…結果を気にしない明るい年少児…雪遊びに夢中の2歳児…。

最後はおいしいご褒美を頂きみんなにっこにこの笑顔！！真っ白な雪の贈り物…また来年も子どもたちに届きますように。(保育士 林田 寿美恵)



今年もやってきました節分！！御影こども園にも毎年、鬼がやって来ます。節分までの数日間、「心に住む悪い鬼を退治しよう」「どんな鬼がいるかな？」と子ども達に問いかけながら、その日を待ちます。怖がる子どもも多いですが、悪い鬼を退治するため今年も頑張りました。

当日の朝はお面を被って遊戯場に集まり、大好きな“鬼のパンツ”と“鬼の自慢”という曲を踊ります。子ども達はこの踊りが大好き！みんな笑顔で踊ってくれました。

それぞれのクラスで作ったお面を見せあっこしたり、先生の出し物のペープサートを見たりして楽しんでから、全児で行うゲーム開始。ここまで来ると「いつ鬼がでてくるかな」「もうそろそろかな」と勘の良い子は気づき始めます。そして…

豆まきゲームをするその時、鬼登場！！
蜘蛛の子を散らすように、子ども達が散っていきまいた。でも「鬼に豆をぶつけて！」「みんな頑張って！！」と保育者に応援され、頑張って戦う子どもも出てきます。毎年恒例、年長の担任が捕まってしまう、助けに行かなくては！と頑張る5～6名。涙ぐましい努力で、見事担任を奪還。鬼はやっと降参して帰っていきました。

鬼が置いて行った大豆を、今年は遊戯場で炒って食べました。自分の年よりも1つ多く食べ、節分が冬と春を分ける日という由来も聞きました。



♪ ひなまつりも ありました ♪

3月3日（火）に、こども園でひなまつりがありました。感染症拡大予防でお休みされた子どもが多かったのですが、ひまわりさんが考えてくれた振り付けで“うれしいひなまつり”を歌い踊り、職員の出し物のカエルや熊のお雛様が出てくるペープサートを、皆で笑って楽しみました。

その後におこなった段ボールの菱餅を運ぶゲームがとっても楽しくて、子ども達だけ、保育者だけ、子どもと保育者一緒にと、転がる菱餅に大笑いしながら3回も楽しんでしまいました！！こどもの笑い声があふれているのは幸せなことなのだと、改めて感じた行事でした。久しぶりの友達や保育者との再会を喜び、美味しいちらし寿司を食べ、お昼寝後のおやつにひなあられを食べ…。



暗いニュースで心が沈む中、何気ない日常がかけがえない日々なのだと感じつつ、年長さんとの残り少ない行事を、皆で楽しんだ一日です。こども園にある七段飾りのお雛様が、その様子を優しく見守っていました。

（保育士 田村 暁子）

オリンピック・イヤー

新たな年を迎え、今年注目すべき話題や世界の動きがメディアから提供されています。

すでに東京オリンピックにあたり祝日の変更になっていますが、開催まで 200 日あまりとなり、例年とは違うプロ野球の休止期間や高校野球（甲子園）開催期間が発表されました。身近な子どもたちの大会も、昨年とは少々違う日程になってくると予想されます。

7月には、開催に合わせ5G（5th Generation）の国内サービスが開始されるようです。世界では、2019年までに18の国と地域が利用を開始しています。超高速化、超多数同時接続、超低遅延が特徴として挙げられ、今までインターネットに接続していなかったものをつなげることで私たちの暮らしが大きく変わることになりそうです。2時間の動画ダウンロードに30秒前後要していたものが3秒くらいでできるというから驚きです。

これから多くの機器がネットワークにつながることで、便利になるとともにセキュリティ対策が今まで以上に大切になってきます。2018年にはすでに、Webカメラやホームルーターなどを狙った攻撃が報告されています。だからといって、利用しない選択肢には無理があります。保護者や大人に求められていることは、子どものネット利用を見守る責任です。

子どもの年齢に合わせ見守り方や与え方には違いがあります。

- 幼児には大人のスマホやタブレットを利用させることが多いのではないのでしょうか。まだ小さいからとフィルタリングなしのものを利用させているのは、幼児を大人用の自転車に乗せているようなものです。フィルタリングをかけることをお勧めします。また、言語やコミュニケーションを育てる大切な時期です。やむを得ないときはあると思いますが、ぬり絵、ブロック・パズル、絵本などで一緒に遊ばせてあげてほしいと思います。
- 小学生には、ルール・モラル・マナーを守って安全に使えるように接することが大切です。それには、ネットでも家庭でも決まりや約束を守ることを大切にしてください。「ダメなものはダメ」を徹底することが必要です。
- 中学生は、大人の言葉よりも仲間（友達）との関係性が重要になる時期です。しかし、ネットにつながっていることで、家の中まで関係が途切れずそこから生じる問題も指摘されています。大人が作ったルールの押しつけではなかなか守れない時期です。じっくり話し合うなど妥協点を探しながら一緒に決めていくことが大切になります。

（参考・引用：安心ネットづくり促進協議会より）

しみず「教育の四季」推進協議会として「しみずソーシャルメディアガイドライン」を作成しています。オリンピック・イヤーを迎え、グローバル世界で生きる子どもたちと丁寧に話し合う機会としてはいかがでしょうか。

（教育指導幹 福原 幸江）



家庭・学校・地域が連携して町民総ぐるみで「12の窓」
から感性あふれ、表情豊かな子を育てる

春～さわやかな風の中で 元気に力強く

家庭・学校・地域今月の取組

家庭は、行ってらっしゃい
背中に声かけ
地域は、こどものあんぜん
見守ろう